

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 孝養ハイツグループホーム(八幡沖ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900025		
法人名	室根孝養会		
事業所名	孝養ハイツグループホーム(八幡沖ユニット)		
所在地	岩手県一関市室根町折壁字向山67番地3		
自己評価作成日	令和1年7月8日	評価結果市町村受理日	令和1年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して12年になります。男性2名、女性7名が入居されています。広いリビングの隣に、陽当たりが良いデッキがあり、利用者が気軽に日光浴をしています。又洗濯物を一緒に干したり、プランターの花や野菜を眺めたりと自由に行える環境になっています。昨年度の目標が”気軽に外出できる環境を作る”ということもあって、日常的に外出の機会を多くしようと限られた職員数を工夫し、食材の買い物やドライブなど積極的に行っています。今年の6月には両ユニット合同で尻鼻溪の船下りと観光ホテルでの食事などを楽しみました。又身体拘束等の適正化の取り組みとして、身体拘束ゼロ検討委員会の委員を中心に勉強会を行うなど、職員一人ひとりが自覚を持って取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0390900025-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、社会福祉法人室根孝養会が町の中心地区の高台に開設した2ユニットのグループホームである。敷地内には、法人が経営する特別養護老人ホーム、ショートステイやデイサービス等の事業所、生活支援ハウスがあり、広い駐車場や野菜畑もある。利用者のみならず家族や知人も高齢化傾向にあり、敷地内の施設利用時に面会される家族や知人もある。近隣には、役場や診療所、商店もあり、社会資源に恵まれている。共有スペースから出入りできるウッドデッキには、プランターに野菜が植えられ、水遣りや収穫が利用者の生活の楽しみとなっている。運営推進会議の構成員は利用者、家族、自治会長、民生委員、駐在所、市役所、消防署と充実している反面、ボランティアの慰問や介護体験等の学生訪問は、特別養護老人ホーム「孝養ハイツ」のみ行なわれ、現在、入居者の笑顔を引き出す地域住民との交流事業について検討中である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年7月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム(八幡沖ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員が目につくところに理念を提示し、共通した対応を心がけている ・定期的な話し合いを実地、問題発生時はその都度会議等で検討している	理念は、共有スペースの壁に大きな文字で掲示し、職員への意識づけを図っており、辞令交付式や訓示の際に唱和している。毎年、事業計画の話し合いの際に理念についても振り返ったうえで、継続としている。日常業務では、理念に基づいたケアの実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の夏祭りに参加したり、文化祭見学や作品を出展したりしている ・地域のサロンや敬老会に出掛けるなど、希望に添った対応をしている	地域のボランティアの慰問や幼稚園児の来訪、学生の介護体験等は、隣接の特養「孝養ハイツ」で行なわれており、事業所への単独の来訪はなく、課題となっている。運営推進会議の場を活用して食生活改善推進員を紹介してくれるよう依頼したり、中高生の介護体験の受け入れを検討中である。	
3		○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者家族や近隣の方等の相談や質問等に対応している ・入所の申込みを検討されている方々のお話を伺い、適切なアドバイス等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・GHの問題や研修参加報告の場としても活用している ・その都度の問題改善につながっている	運営推進会議は、利用者、家族、地域代表、市町村、警察、消防等の関係者が委員になっており、充実した構成である。1年かけて食費の値上げについて話し合い、1日800円から900円にする合意を得ている。委員は、会議開催日には決まって利用者と交流し、この秋にも利用者と一緒に芋煮会を実施する予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進員にもなって頂き、情報の共有ができている ・地域ケア会議に参加している	運営推進会議委員として支所職員が参加し、地域の介護事情についての情報提供を得ている。隣接の特養で開催される地域ケア会議で検討した困難事例の方が、後日当グループホームに入居されるなど、市との協力関係が築けている。市窓口には、要護認定申請のため、介護支援専門員が出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修の伝達などを含め、身体拘束ゼロ検討委員会を中心にGH内での研修、話し合いができています ・特養との会議にも参加している	法人内の「身体拘束ゼロ検討委員会」に年4回参加し、主に代替ケアを中心に検討している。日常業務では、不適切な言葉には、職員間でタイムリーに注意しあえるようスピーチロックについての研修を実施している。利用者は、共用のホールからウッドデッキに自由に出入りしている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・権利擁護に関する研修に職員が参加し、職員会議にて研修を行い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・身元引受人がいない利用者を受け入れる際、市町村と連携し、成年後見制度等学んだ ・自立支援事業を利用されていた利用者がいた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約、解約時とも本人、家族に書面にて説明を行い、納得の上で契約を行っている ・改定時にも書面にて承認頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に情報を共有し、質問や意見等を聞き反映させている ・苦情窓口を設置し解るように玄関に提示している	年1回家族交流会を開催し、意見を聞いたり、家族同士の交流を図っている。面会や運営推進会議に家族が来所される他、敬老会、ご年始会等の行事に参加された機会に、必ず意見を聴いている。家族から意見があり、居室内の洗面台に温水器を設置した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議にて意見や提案を取り上げ検討している ・日々の業務の中でも職員の意見に耳を傾けている ・会議で提案された(温水、手すり等)は改善されている	職員会議で業務改善について検討し、毎日の業務を「柔軟性をもって利用者優先」とし、マニュアル通りから利用者本位へと、優先順位を変更して行なうこととし、実践している。業務日誌の記載内容やバイタルチェックの確認等、業務の簡素化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・給料表に基づく定期昇給を引き続き実施すると共に、勤務実態に応じ一定の水準の賞与も支給している ・年間120日の休日を確保すると共に希望休や年次休暇がとれるよう務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者によるOJTはもとより、職場外研修の受講案内があれば、積極的に管理者及び職員に受講させるよう努めている ・新たな資格取得を目指す職員には受講料の補助など職員の資質向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県内GHの実践報告会や情報交換会に管理者及び職員を積極的に参加させている ・サービスの質の向上、同業者との交流が図れるようにしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に管理者、ケアマネが利用者さん宅を訪問、家庭の雰囲気なども確認させて頂き、職員の顔を知って頂き、親近感を持ってもらえるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所が決まった時点で、ご家族に来て頂き、施設見学や必要な物の説明、家族の不安解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・御本人やご家族の状態把握するため、直接お話を伺うことはもちろん、担当ケアマネに話しを聞いたり、他のサービス事業所から情報をもらうなどあらゆる報告から対応を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の先輩として尊敬し、教えて頂くことも多い ・利用者さんが職員に遠慮することなく、気軽に何でも言える様な環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・季節の変わり目での衣類整理や居室の模様替えなどご家族にお願いしている ・担当職員から、近況報告等を定期的に行い、必要時には面会等もお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・行きつけの美容院など家族の協力を頂いている ・地域の方の協力と家族の理解で地域のサロンに出掛けたり、地域の敬老会に参加された方もいた	両ユニット夫々に入居している同級生が、担当者同伴で今年開通した気仙沼大橋の見学に出かけている。敷地内のショートステイを利用している夫が、妻に面会に来ている。デイサービスや支援ハウスを利用している親戚や知人の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の利用者の性格等を把握し、トラブルを避けるため食事席の変更や、利用者同士が雰囲気良く生活できるよう支援している ・食後のお茶碗拭きや食事の下準備など協力して行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・隣接する特養に入所時には御本人の生活習慣など詳しく申し送りを行い、面会にも行っている ・ご家族にお会いした際は様子を伺うなど関係は続いている		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所時の情報を共有した上で、日々の行動や言動など観察意識を持って接している ・ケアマネや担当を中心に本人の思いを把握し、情報を共有できている	入居時に利用者の担当職員を決めている。入居時の情報や日々の生活から得た情報をその都度話し合い、職員間で共有している。利用者理解のための職員間のコミュニケーションは良好である。担当職員は、担当利用者の概要を毎月ケアマネジャーに報告している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に管理者がその方のフェースシートを作成し、職員全員で確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・担当職員を決め、日々の変化を見逃さず、本人の出来る事や心身状態を把握し状態維持できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意向は面会時に伺い、訪看、薬剤師にも相談助言いただきプランに活かしている ・モニタリングを行い、現状に即してサービス内容の見直しを行っている ・ケアプランを回覧し、情報の共有や共通認識を持っている 	初回計画には、利用者が入居して間もないことから、施設に慣れることや状態の観察機会と捉え、短期間の計画とし、以降は夫々の目標に沿って具体的な内容を複数網羅し、その内容に沿ってモニタリングを行なっている。毎月担当者が、利用者の所見をまとめ、ケアマネジャーは担当者所見を重視し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のケース記録に入力、5年間保管している ・変化時の他にも気づき等は掲示板にのせ情報を共有している ・ケアマネを中心にケアの見直しなどにも活かしている 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしで身元引受人がいない利用者さんに対して施設全体でフォローすることを前提に、遠い親戚の方に何とか承諾頂いた経緯がある ・入院時も全て対応した 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入所中の利用者さんの近隣の方や同地区の民生委員さんが現在も関わっていただき、自宅周辺の環境整備等を行ってくださっている ・近隣の方が畑で収穫した野菜等を届けて頂き、食事に提供している 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医(診療所)との医療連携をしており、定期的な通院で気になることなど相談しやすく、体調不良時は連絡し通院できている ・本人、家族の希望で主治医を決めている、家族対応時は文書等で情報提供を行っている 	主治医が敷地内の診療所の場合、受診時は職員が対応している。近隣の千厩町や気仙沼市の医療機関が主治医の場合は、家族が対応しており、受診時にはホームでの状況を文書で情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日午前と午後バイタル測定実施、体調確認等も行っている ・バイタル異常時や体調不良時は医療連携している看護師に報告し指示を仰いでいる ・医療連携している看護師は定期的に訪問している 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・医療連携シートを作成しており、入院時は医療機関に情報提供を行っている ・入院中、びょうじょうせつめい ・退院説明時はご家族の了解を得て同席している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用開始時に本人、ご家族に対して重度化対応や終末期対応、急変時対応など説明の上同意頂いている ・重度化した場合、管理者が家族の意向を再確認し意向に沿った対応ができるよう支援している ・今まで看取りはなく、長期入院か、隣接する特養入所になっている	入居時に、重度化・終末期対応について説明している。町内には、訪問診療を実施している医療機関は無く、積極的な看取りは行っていない。家族の強い希望によっては、出来る範囲で対応することとしている。法人内で実施している看取りの研修会に参加し、ホームの職員研修で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応マニュアルに沿った対応 ・急変時連絡網及び対応方法を見えるところに提示し全職員が認識できている ・普通救命講習に全職員参加したが、その後定期的な訓練は実施していない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・毎月避難所の確認をしながら、災害に備えてシミュレーションしている ・法人全体の避難訓練には地域の方も参加されている ・防災自主チェック表で定期的に避難経路や備蓄品の管理を行っている	年2回、特養と合同で消防署立会いの総合避難訓練を実施し、地域の方の参加もある。ホームでは毎月避難場所の確認をしながら、災害(火災、裏山崩れ等)に備えてシミュレーションをしている。	これまで、日中に夜間想定で訓練を行なっているが、今後、夜間に、夜勤者一人体制での車椅子での移動、職員召集、警備会社への緊急通報等、個々の訓練を積み重ねることを含め、暗さの体験を実施されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々に応じた対応や言葉がけや、排泄等プライバシーに考慮した対応を行っている ・サービスの基本を理解した上で、馴れ合いにならないよう心掛け対応している ・利用者全員の前で話したり、配慮が足りないとこもある	利用者へは、概ねさん付けで声掛けしている。利用者のプライドを傷つけたり、否定的な情報については職員間で共有し、配慮した対応をしている。利用者の前での私語は慎んでいる。特定の職歴の方やプライドの高い方への接し方に配慮し、また馴れ合いにならないよう留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望を聞き、個別での外出支援をしている ・食事や水分摂取など食べて頂けるような工夫や本人の希望に沿ったものを提供するように配慮している ・洋服など自分で選んで着て頂いている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食事時間や入浴時間等どうしても職員側の都合で決めているところがある ・就寝も一人が動き始めるとそれにつられて、他の方達も動く傾向にある ・自由に散歩に出かけたり、外気良くされる方もいる 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・理髪は定期的に訪問して頂いている ・居室に洗面台と鏡があり、起床時や就寝時には声掛けし鏡を見ながら整容して頂いている ・朝起きると化粧される方がいる 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の下ごしらえや片付け等できることを協力頂いている ・それぞれの好みを伺い、誕生日や行事に取り入れている ・食事を楽しめるような会話や味付けの工夫等で満足な食事時間になるよう支援している 	職員と一緒に野菜の皮むき等、日常的に行なっている利用者もいる。誕生日には、おはぎ等の餅類の要望が多く、時々提供する弁当も喜ばれる。朝・昼食は職員が調理し、夕食は、利用者やゆったりした時間を過ごしたいとの職員の思いから、おかずはデリバリーとし(ご飯と味噌汁は職員が作る)、利用者支援の時間に充てる事が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日3食の、食事量をチェックし、記録に残している ・献立表を作成し、偏った献立にならないよう配慮している ・水分を摂りたがらない利用者さんには、好みのものを提供するとか工夫し提供している 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・義歯の方は夕食後外して洗浄後洗浄剤に浸けている ・歯がある方は歯ブラシにて口腔ケア実施しているが、不十分なところもある ・残歯ある方で虫歯の方がおり、定期的に歯科診療所通院している 		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を活用しながら、個々に応じた支援を行っている ・その方のできる能力を活かした介助を行っている ・排泄介助時の職員の対応が定まっていない 	排泄チェック表を見ながら、利用者の状態に応じ、声掛けやトイレ誘導を行なっている。常時おむつを使用している方は両ユニットともいない。できるだけトイレでの排泄と最低限の排泄用品の使用を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・常に便秘対策として、水分摂取や運動等の声掛けを実施している ・段階的に下剤を服薬し、排便コントロールされている方もいる 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の入浴ができるよう支援している ・入浴拒否の方には時間や日にちを変えて対応している ・職員の決めた予定に添っての入浴となっている、利用者さんから不満は聞かれませんが希望に添った対応とは言えない 	入浴は、日曜以外に週2回入浴している。体調不良や入浴を嫌がった場合は、午後に回したり、翌日に再度試みている。向山ユニットでは、時々入浴剤を使用している。異性介助を嫌がる利用者はいないが、嫌がる様子があった場合は、臨機応変に交代している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼の時間になるべく身体を動かすように声替えをし夜間良眠できるよう支援している ・朝、居室の窓を開けて室内の換気をしたり、夕方には戸締まりをするなど生活のメリハリを付けるよう支援している 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の説明書を職員で回覧し、用法や副作用など確認している ・服薬時は日付、朝夕、氏名を確認し確実に服薬して頂けるよう支援している ・臨時薬や薬の変更時は服薬後の様子観察も行っている 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれができることに手を出して頂き、職員と一緒に段ボールの梱包や裁縫、装飾品の製作など行っている ・月間予定表を手書きで書いて下さっている方もいる ・テレビで演歌を聴くのが好きな方もいる 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に計画しての対応はできている ・天気の良い日は近くへのドライブや戸外にでて日光浴をしている ・近くの産直や買い物などの外出は日常的にできている ・その日の希望に添った個別での外出はできていない 	6月に両ユニット全員で梶鼻溪の舟下りを楽しんだ。日常的には、職員とごみ出ししたり、ウッドデッキ外出により、日光浴や外気浴をしている。ウッドデッキから敷地外に自由に入出りできる。今年度、「個別外出支援」を重点目標にあげ、天気が良く、職員が手薄でない時間帯の外出を試みる雰囲気職場内で醸成中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭は一括して事務所の金庫で保管し、必要時に出している ・日常的に自由にお金を使う場所が無い ・外出時も職員が預かって支払う対応をしている ・紛失や盗まれたとのトラブル回避のため、本人が現金を所持していることは無い 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人からの要求で職員が電話をかけ、本人に代わって話して頂く等の支援は行っている ・手紙等のやり取りをしている方はいない 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関リビングに草花が有り、季節にあった装飾の工夫を月毎の担当が行っている ・利用者にあわせた空調をしている ・玄関やデッキに長椅子を置き、外の景色を眺められるよう工夫している ・日常の風景を写真に撮り、飾っている 	各々のユニットには、共有スペースから自由に入出りできるウッドデッキがあり、「八幡沖」には野菜のプランターが置かれ、「向山」からは室根山が真近に眺められる癒しの場となっている。ホールには、七夕飾りや手作り折り紙、ビーズの暖簾等がたくさん飾られている。廊下には、転倒時の衝撃を緩和する床材が使用され、床暖房や空調も完備され、適切な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの席は決まっているが、ソファーや長椅子など自由に過ごせる場所を作っている ・玄関外やデッキに長椅子を置き、自由に腰掛けられるよう工夫している ・自席への執着を和らげるため時々座席替え等も行っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの家具などを持参して頂き、家族の協力を頂きながら配置している ・壁に家族の写真や、誕生日の色紙など飾っている ・衣類等家族さんに入れ替えをお願いし、面会につなげている 	居室には、収納量の多いクローゼットが設置されている。エアコン、洗面台、利用者の状態に応じたベッドが備え付けられている。配置は自由で、自宅から持参した椅子や衣装ケースを置いても居室内はすっきりした印象がある。出窓があり、棚や壁に家族写真や誕生祝の色紙等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室が解らなくなる方には本人が解るような飾りをしたり、戸の開け閉めが難しい方には扉をのれんに変更するなど自立した生活が送れるような工夫をしている ・非常口に手すりを設置した 		